

令和6年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	54	学校名	中津商業高等学校
------	----	-----	----------

学校教育目標 (教育方針)	「質実剛健」の伝統訓を基調にして、互いに切磋琢磨し、豊かな人間性を備え、社会的に自立した専門職業人の育成に努める。	
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未来を切り拓く起業家精神を持ち、グローバルな視点から社会や地域に貢献できる生徒 ・ 多様なニーズに対応することができる幅広い知識と教養、倫理観と豊かな人間性を備えた生徒 ・ ビジネスに関する専門的な知識や技能を基礎に、課題解決力や情報活用力、分析力を身に付け、将来に向けた社会的自立を実現していく生徒
	生徒をどう 育てるか 【C P】	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネスに関する専門的な知識と技術を習得し、より高度な資格取得に向けた、商業教育各分野の特性に応じた学びの推進 ・ 地域の魅力を発見し課題の解決に取り組む「ふるさと学習」により、地域と連携した課題探究学習を通して、コミュニケーション能力、情報収集力、プレゼンテーション能力と分析力の育成 ・ 互いに切磋琢磨し、自ら高い目標を設定して自己実現することができる主体性と積極性を育成するための学校行事や部活動等の活性化 ・ 自己肯定感を高めるため、学びの多様なニーズに応え、個々に応じた細かい指導、生徒一人ひとりの可能性や能力を最大限に伸ばす教育を推進するとともに学びを支える環境を充実させる
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣、基礎的な学力を持ち、学校行事、部活動などを通して、充実した高校生活を送る意欲のある生徒 ・ 自らの得意なことを伸ばそう、見つけようとする意欲があり、自己実現のために努力できる生徒 ・ 商業に関する学びや資格取得に興味を持ち、本校の「ふるさと学習」（地域課題解決探究学習）に意欲的に取り組む生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確かな学力の育成 ・ 生徒指導の充実 ・ 進路指導の充実 ・ 専門教育の充実 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「確かな学力」を育むため、探究的な学びやICTを活用した学習活動の充実に向けた授業改善を推進する ・ 学習指導要領における3観点について、指導方法や評価の体制を整える
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな人間性で社会的に自立した専門職業人の育成に努める ・ 教育相談の充実と外部教育相談機関との迅速な連携を図り、スピード感をもって事案に対応する
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験的な学習や地域社会と連携したキャリア教育の充実を図る ・ 生徒の進路実現のため、確かな学力や専門的な知識、技能、表現力を身につけるための指導の充実を図る
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「確かな学力」を育み、産業教育における専門性を高める ・ 地域と連携した体験的活動の充実

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画で の位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標
学習指導	・探究的な学びを行うことで、自ら課題を解決する力を身につける。	4	施策Ⅰ-4
	・積極的にICTを活用し、授業の効率化を図る。	9	施策Ⅱ-9
	・生徒主体の新しい形態の授業について研修や実践を行う。	8	施策Ⅱ-8
	・公開授業等で、授業を参観し、情報交換や意見交換を通して授業改善に努める。	26	施策Ⅳ-26
生徒指導	・社会的なマナーやモラルについての学びを通して、心の成長を考えることができる。	1	施策Ⅰ-1
	・LHRにおいて、社会人として通用する中津商業生を育てる。	8	施策Ⅱ-8
	・生徒及び保護者への支援を早めに協議、対応できるようにする。	3	施策Ⅰ-3
	・配慮が必要な生徒に対し、公認心理師や外部相談機関と迅速に連携を図る。	19	施策Ⅲ-19
進路指導	・地域で活躍する卒業生から直接話を聞き、キャリア教育の充実を図る。	13	施策Ⅱ-13
	・インターンシップを通し、マナーや地元企業を知り、職業観を醸成する。	7	施策Ⅰ-7
	・大学見学や企業見学を通して進路意識を高揚させるとともに、起業家精神を育成する。	10	施策Ⅱ-10
	・商業の専門性を活かした高い目標に挑戦するため、入試対策や学習指導を行う。	14	施策Ⅱ-14
その他	・「日商簿記」、「情報処理技術者試験」等の高度な資格への積極的な受検を促す。	14	施策Ⅱ-14
	・産振導入施設設備、ICT機器を積極的に活用する。	10	施策Ⅱ-10
	・地元企業や自治体と連携し、授業や講演を行い、地域経済への関心を高める。	4	施策Ⅰ-4
	・小学校や中学校への出前授業を実施し、商業教育の普及と理解に努める。	7	施策Ⅰ-7

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年1月22日

<ul style="list-style-type: none"> ・授業において生徒が主体性を持って活動できるような工夫を、授業研究を通して教員同士で情報共有をしていく。 ・生徒主体の授業において、ICTを有効活用できる授業を研究するとともに、教員同士で気軽に情報交換ができるようにしていく。 ・生活態度が気になる生徒に対して、対話等のかかわりを通じて生徒個人で考え自己管理出来るような指導を心がける。 ・学年会と教育相談の情報共有し、悩みを抱えている生徒情報を、SC、SSW等、外部機関につなげ、生徒支援の充実を図る。 ・人間関係を築き上げることが未熟な生徒たちに、「スリンプル・プログラム」を導入することを決めたが、来年度は計画的、継続的实施に向け校内の体制を整える。 ・進学希望者が増加しており、生徒一人ひとり異なる進路の実現に向けての支援体制の充実を図る。 ・生徒や保護者に向けてより充実した情報提供をPTA総会や学年懇談会を通して実施する。 ・進路関係行事について、学年会と連携した組織的な運営を行うとともに、行事の精選についての検討を行う。 ・検定に向けての学びと課題研究を中心とした探究的な学びが両立できるようにする。

年度末評価(自己評価)			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業の実施 校内外からの参観者 教員同士の意見交換 ・研究授業の実施(5名) ・アンケート結果 ICT機器の利用(77%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業や研究授業では、生徒主体の授業形態が多く見られた。 ・多くの教員が、自身の授業でICTを利用して、授業の効率化を図れている一方で、生徒がタブレットを利用する授業は多くはない。 	B
<ul style="list-style-type: none"> ・中津川警察署による「情報モラル講話」を実施したり、毎月、教員と生徒会、MSLによる交通安全指導や挨拶運動を実施した。 ・クラス学年独自のテーマでLHRを行い、HR内の組織作りや個々の役割を自覚させ、多様な集団での生活の諸問題の解決能力を養った。 ・SCによるカウンセリングを毎月(18回)実施し、学年会・職員会議でその情報を共有するとともに、研修会も実施して、全職員のスキルの向上を図った。 ・教育相談、養護教諭、学年、担任がチームとして、医療機関と連携し、自傷行為やオーバードーズ、体調不良について、フローチャート化して全体が対応できるようにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ等生活態度が気になる生徒に対して、対話を通じて生徒個人で考え自己管理出来るような指導を心がけた。 ・自主的、実践的な集団活動を通して、主体的に集団に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成する態度が養えた。 ・学年会と教育相談の情報共有の中で、悩みを抱えている生徒情報を、SCにつなげることが多くできたことは成果だった。 ・全体的に人間関係を築き上げることが未熟な生徒たちに、「スリンプル・プログラム」を導入し、定期的の実施出来たことは良かった。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○進路ガイダンスの実施について ・1年生は10月に大学・短期大学・専門学校24校、分野ごとの説明会を実施 ・2年生は11月に企業9社と市役所、卒業生10名による講演と各ブースでの説明会を実施、進学は21コースによる体験実習等を実施 ・3年生は8月に外部講師による就職面接指導と志望理由書の書き方講座を実施 ○インターンシップを1年生2月に地元企業52社で実施 ○離間校への進学希望者への取組 ・基礎学力テストや外部模試の実施や希望者へスタサプの導入 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリアパスポート」(進路ノート)を活用し、3年間継続した進路への取り組みを行うことにより、進路意識を高めることができた。 ・進学希望者が増加しており、生徒一人ひとり異なる進路の実現に向けての支援体制の充実を図る。 ・生徒や保護者に向けてより充実した情報提供を心がける。 ・進路関係行事については学年会と連携した組織的な運営を行うとともに、行事の精選についての検討を行う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート「資格取得に積極的に取り組んでいる」の好評価が90.2%であった。 ・DX教室での授業においてマルチメディアの学習を積極的にを行っている。同教室で行われる、ほぼ全ての授業で実施。 ・アンケート「地元企業や自治体と連携し地域経済に関心を高めている」の好評価が76.8%(前年比+8.0%)であった。 ・中学校へ6回、小学校へ3回の出前授業を行い、簿記やプログラミングの理解を図っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日商簿記検定1級2名、日商簿記検定2級18名、基本情報技術者試験2名合格の成果が上がった。情報系の合格者を増やす。 ・課題研究、ネットワーク活用において、多くの成果物を作成した。 ・各科、各コースともに外部との連携活動を行い、授業や講演を行っている。 ・小中学校の児童生徒や職員から好評を得て継続しており、今後も続けたい。 	

学校関係者評価

実施日：令和6年11月6日

<ul style="list-style-type: none"> ・中学校でも同様に心身の不調を訴え欠席する生徒が増えている。その中で本校の教育相談の取組は非常に大事である。 ・会計コースの出前授業を実際に中学校で行っているため、この体験を通して、進路意識が芽生えた生徒が増えた。今後も中学校との連携を続けてほしい。 ・ビジネス情報科の課題研究において、ワークライフバランスに視点を当てている所が非常によい。 ・本校の生徒が自分の目で企業を見て取材をし、それを更に中高生に周知する事で、企業側の意識も変わった。 ・学校評価アンケートでC～Eをなぜつけたのか、生徒に理由を聞くのがよい。理由が分からない状態で教職員が分析をしないといけないのはかなり負担になる。任意で理由が記入できるようにすればよい。 ・スクールミッションについて、本校の特色が分かるような文言を入れるとよい。 ・スクールミッションについて、長い文章だと分かりにくいので、簡潔に表現できるとよい。
